

## アメリカの大学について

安田 言（高校2年）

私がこのトランス派遣に参加した理由の一つに、アメリカの大学を訪れることで自分の進路に役立てたいと考えたことがある。プログラムに既定の UCLA 以外にも幾つかの大学を訪れたいと考えていた。そこで第一ホストファミリーに案内して頂いて UCI、UCB、USC など計7校の大学を訪れた。

それらの大学は、日本の大学と比べると規模が大きく、校舎がとてもきれいで最新技術が備わっていた。そのためスクーターや自転車で移動している人も見受けられた。違いが生じる理由として地理的問題のほかにも日本人は文化や伝統を重んじる国民性から歴史ある大学などではなるべく校舎の外見を変えずに修理するといったことが挙げられる。またアメリカの大学生の半数以上が車で登校に対して日本の大学生のほとんどが徒歩での通学という面でも大きな相違点があると感じた。

次に受験制度について考えていく。今回は上記に挙げた UCLA(カルフォルニア大学ロサンゼルス校) UCI (カルフォルニア大学アーバイン校)、UCB (カルフォルニア大学バークレー校)、USC (南カルフォルニア大学) について調べた。

大学名	大学合格率 (編入以外)	留学生の合格率 (編入以外)	学費(寮、食事代を除く)
UCLA (州立)	12.4%	11%	43,000 ドル
UCI (州立)	37%	17%	38,000 ドル
UCB (州立)	15%	14%	36,000 ドル
USC (私立大学)	11%	14%	53,000 ドル

調べてみてわかったことは、上記の表が示す様にどの大学も留学生の合格率(留学生の数/志願者の数)が低く、高校から直接留学することは難しいことが分かった。さらに、私立大学と州立大学とでは、日本と同様に学費に大きな差があった。実際ホストファミリーから、これらの大学に直接入学するのは難しいと言われていた。そこで、コミュニティ・カレッジという2年制大学で勉強した後、大学3年に編入するといったことだった。実際調べてみると留学生の9割近くはコミュニティ大学出身だった。

留学することの利点として、語学力の向上、国際的な交友関係、視野の拡大などがあげられる。私は将来、外資系企業に勤めたいと考えているため、大学生になったときに今回訪れた大学に留学したいと思う。

